

# 子ども・若者の居場所における効果的支援と課題 —倉敷市・岡山市における不登校・ひきこもり支援団体へのインタビューをもとに—

## Effective Support and Assignments with the Places for Children and Adolescents —Based on the Interviews with Non-attending Children and Socially Withdrawn Adolescents Support Organizations in Kurashiki and Okayama City—

(2017年3月31日受理)

伏見 美紀\* 延原 栄子\* 春田萬壽美\* 入江 麻紀\* 中 典子  
 Miki Fushimi Eiko Nobuhara Masumi Haruta Maki Irie Noriko Naka

Key words : 相談援助, 親子の関係調整, 当事者理解, 家族・他支援者との協働, 社会との関係調整

### 要 旨

本研究では、倉敷市における不登校・ひきこもり支援団体の支援内容、岡山市における同団体の支援内容を併せて検討し、倉敷市・岡山市の不登校・ひきこもり支援団体による効果的支援とその課題を検討する。倉敷市5団体への2015(平成27)年1月から2015(平成27)年8月まで、岡山市9団体への2016(平成28)年3月から2016(平成28)年8月までのインタビューで明らかになった活動内容をKJ法にもとづいて、分類整理し、図解化した。倉敷市・岡山市における活動内容の分類整理で139種類の〈データラベル〉ができた。これにもとづいて[第1段階のグループ編成]を行うと20[グループ]ができた。これらで【第2段階のグループ編成】を行うと【集団支援】、【個別支援】、【効果的支援】、【効果】、【課題】の5【グループ】ができた。

分類整理の結果、【効果的支援】は、その中に含まれる[個別対応]、[カウンセリング]、[訪問]、[家族との協働]、[他支援者との協働]、[当事者のしんどさ理解]、[親子の関係調整]、[社会との関係調整]、[関係づくり]であると明らかにすることができた。

### I. 目 的

岡山県下の不登校・ひきこもりに関する行政の支援情報は、市区町村毎に存在する。不登校支援は、稲毛ら(2014:79)が述べるように、適応指導教室が「不登校児童生徒の自主性・自立性を育てたり、自信を回復させたり、対人関係の能力を伸ばしていることが示され、学校とは違う環境で安心できる居場所を提供し、援助していく」。しかし、行政による支援は、小・中学校の義務教育の保障であり、居場所に結びつくまでの支援は難しい。また、彼らが学籍を離れた後の対応は不可能である。ひきこもり支援については、「子供・若者育成支援推進大綱」で就労に結びつくための支援が示されている。しかし、就労の場での支援に結びつくまでの支援は難しい。

これらのことから、不登校・ひきこもりについては、どのような効果的支援があるか、「課題は何か」を考え、求められる支援を柔軟にできる可能性を見出す必要がある。

「子供・若者育成支援推進大綱」では、不登校・ひきこもり支援は、行政と民間支援団体が協働する必要があると述べている。ここから、必要な支援を柔軟にできるのは、民間の支援団体であるといえる。よって、民間支援団体の効果的支援を明らかにする必要があるといえる。伊勢他(2014:21)が述べるように、行政機関と民間支援団体との連携で長期的な支援体制の構築のために見守りと利用しやすい体制を築くことになる。民間団体の支援活動は、当事者に生活面の変化、人間関係の構築、社会経験の機会を設け、安心して過ごせるようにするも

\*岡山県社会福祉士会子ども家庭福祉委員会

のである(浅田 2010:202)。行政と民間支援団体との協働が効果的であることを明らかにするのであれば、不登校・ひきこもり支援団体による効果的支援とそのための課題を検討する必要がある。

岡山県下における不登校・ひきこもり民間支援団体に関する情報をWeb上で検索すると、倉敷市と岡山市に関するものが主であった。伏見ら(2016a, 2016b, 2016c, 2016d, 2016e, 2017a, 2017b)は、2015(平成27)年度に倉敷市、2016(平成28)年度に岡山市の不登校・ひきこもり民間支援団体に対してインタビューを行い、情報誌を作成し、それにもとづく研究を行っていた。倉敷市については、団体が目指すもの、現状と課題、情報誌作成の方法、居場所の運営方法について研究していた。ここでは、団体による支援活動の効果は、明らかにされていない。岡山市について、伏見ら(2017a:123)は、効果的支援を研究し、それが「【相談助言】、【協働】、【訪問】、【状況把握】、【関係調整】」と述べている。この結果にもとづいて伏見ら(2017a:123)は、「岡山県下でこれらの支援が効果的であると結論づけることには限界がある」とも述べている。今後、岡山県下における不登校・ひきこもり支援の充実を図るには、岡山県下において、どのような内容の支援活動が効果的であるかを明らかにする必要がある。特に、支援情報が集中する倉敷市・岡山市の効果的支援とその課題を検討することは、岡山県でどのような支援活動が望まれるかを探し出すことにつながる。

そこで、本研究では、伏見ら(2017a)による「岡山市における不登校・ひきこもり支援団体による支援活動の効果—岡山市での取り組みを中心に—」を再検討するとともに、倉敷市における同活動の効果的支援を併せて検討し、倉敷市・岡山市の不登校・ひきこもり支援団体による効果的支援とその課題を検討する。

## II. 方法

倉敷市5団体への2015(平成27)年1月から2015(平成27)年8月までのインタビュー、岡山市9団体への2016(平成28)年3月から2016(平成28)年8月までのインタビューで明らかになった活動内容をKJ法にもとづいて、分類整理し、図解化した。なお、岡山市の支援活動

については、伏見ら(2017a)の研究をもとに再分類整理し、考察しなおした。

KJ法を用いた理由は、川喜田(1970:235)が「不確かな情報からでも真実が見抜ける」と述べるからである。また、川喜田(1970:78)は、グループ編成が10以下になるまで編成し続けることが、人間にとって直感的に全体として見抜くことができることも述べている。本研究では、不確かな内容から真実を見出していく必要があるため、KJ法を用いて分類整理した。分類整理の内容確認は筆者ら5名で行った。なお、データラベルを〈 〉、第1段階のグループ編成を[ ]、第2段階のグループ編成を【 】であらわした。結果と考察は図解化で示された番号にもとづいて述べるが、本文中では番号を省略した。

本研究で分類整理に用いる内容は、伏見ら(2016a, 2017b)が、公表の許可を得て作成した情報誌の中の「どのような活動をしていますか」、「具体的にどんな活動をしていますか」、「こんな活動をしているよ」としているところである。

## III. 結果と考察

### (1) 分類整理

岡山市における分類整理では、115種類(延べ160)の〈データラベル〉ができた。倉敷市における分類整理では、53種類(延べ70)の〈データラベル〉ができた。それらの230の〈データラベル〉にもとづいて整理していくと139種類の〈データラベル〉となった。これらにもとづいて[第1段階のグループ編成]を行うと20[グループ]ができた。岡山市の内容を分類整理したのちに倉敷市の内容の分類整理を行うと、岡山市の内容のみでできたグループが[訪問]、[他支援者との協働]、[親子の関係調整]、[支援技術の向上]、倉敷市の内容のみでできたグループが[資源の充実]であった。これらで【第2段階のグループ編成】を行うと【集団支援】、【個別支援】、【効果的支援】、【効果】、【課題】の5【グループ】ができた。

#### 1) 【集団支援】について

(表1)より、〈フリースペースの設置〉、〈居場所の提供〉、〈農作物を作るボランティアの依頼〉、〈市民農園の借り上げ〉、〈活動の場への参加促進〉、〈内容に対する合

意確認)〈チラシをつくる〉〈チラシをご近所へポスティングする〉の8種類を[活動の準備]とした。〈イベント〉・〈就労体験〉・〈工場見学〉の企画の3種類を[活動の企画]とした。次の18種類のデータラベルを[企画の開催]とした。〈イベント〉・〈キャリアデザインワークショップ〉・〈勉強会〉・〈家族教室〉・〈父親学級〉・〈母親学級〉・〈若者学級〉・〈当事者学級〉の開催、〈農園の開園〉、〈出張

相談会〉・〈ビジネスセミナー〉・〈保護者会〉・〈就労後の交流会〉・〈スポーツ体験活動〉の開催、〈余暇活動の実施〉、〈支援者と一緒に農園へ農作物を収穫しに行く〉・〈太陽の光を浴びて活動する〉・〈生活のリズムを取り戻す〉機会の提供である。上記の[活動の準備]、[活動の企画]、[企画の開催]の3グループを【集団支援】とした。

(表1) 支援の内容 (その1)

【1 集団支援】	
[第1段階のグループ編成]	〈データラベル〉 〈倉敷市〉, 〈岡山市〉, <u>〈倉敷市と岡山市〉</u>
[1 活動の準備]	〈フリースペースの設置 (2)〉
	〈居場所の提供 (4)〉
	〈農作物を作るボランティアの依頼〉
	〈市民農園の借り上げ〉
	〈活動の場への参加促進 (2)〉
	〈内容に対する合意確認〉
	〈チラシをつくる〉
	〈チラシをご近所へポスティングする〉
[2 活動の企画]	〈イベントの企画 (倉敷市2 岡山市3 計5)〉
	〈就労体験の企画〉
	〈工場見学の企画〉
[3 企画の開催]	〈イベントの開催 (倉敷市3 岡山市1 計4)〉
	〈キャリアデザインワークショップの開催〉
	〈勉強会の開催 (2)〉
	〈家族教室の開催〉
	〈父親学級の開催〉
	〈母親学級の開催〉
	〈若者学級の開催〉
	〈当事者学級の開催〉
	〈農園の開園〉
	〈出張相談会の開催〉
	〈ビジネスセミナーの開催〉
	〈保護者会 (茶話会・勉強会等) の開催 (2)〉
	〈就労後の交流会の開催〉
	〈スポーツ体験活動の開催〉
	〈余暇活動の実施〉
	〈支援者と一緒に農園へ農作物を収穫しに行く機会の提供〉
	〈太陽の光を浴びて活動する機会の提供〉
〈生活のリズムを取り戻す機会の提供〉	

## 2) 【個別支援】について

(表2)より、〈学習支援〉、〈塾の開催〉、〈家庭教師〉、〈進学〉・〈復学〉サポートの5種類を〔学習支援〕とした。〈就労支援〉、〈就労準備支援〉、〈就職活動への意識づけ〉、〈職場見学の実施〉、〈職場体験の機会を提供〉、〈働き始めた後の相談支援〉、〈職業的自立への促し〉、〈就労後の定着支援〉、「働く」ことへの〈不安〉・〈悩み〉の解消、の10種類を〔就労支援〕とした。〈社会的な自立支援〉、〈当事者のやる気が出るまでの見守り〉、〈生きる力を育ていけるような働きかけ〉、〈当事者にやる気を出させるような働きかけ〉、〈当事者が社会資源を利用できるようになるまでの支援〉の5種類を〔自立支援〕とした。〈生活

の安定に向けての支援〉、〈精神面への支援〉、〈安全面への配慮〉の3種類を〔生活支援〕とした。上記の〔学習支援〕、〔就労支援〕、〔自立支援〕、〔生活支援〕の4グループを【個別支援】とした。

## 3) 【効果的支援】について

(表3)より、〈当事者に合ったプログラムの推奨〉、〈個別カリキュラムの作成〉、〈個別支援〉、〈個別カリキュラムに沿った支援〉、〈個別指導〉の5種類を〔個別対応〕とした。〈個別〉・〈親〉・〈訪問〉・〈来談〉カウンセリング、〈支援前面談〉、〈面談〉の6種類を〔カウンセリング〕とした。〈訪問〉、〈“一歩外に出るまで”〉・〈“スタートへ導くため”〉の訪問の3種類を〔訪問〕とした。〈家族への連

(表2) 支援の内容 (その2)

【2 個別支援】	
[第1段階のグループ編成]	〈データラベル〉 <u>〈倉敷市〉</u> 、〈岡山市〉、 <u>〈倉敷市と岡山市〉</u>
[4 学習支援]	<u>〈学習支援 (倉敷市7 岡山市8 計15)〉</u> 〈塾の開催〉 〈家庭教師〉 〈進学サポート〉 〈復学サポート〉
[5 就労支援]	〈就労支援 (2)〉 〈就労準備支援〉 〈就職活動への意識づけ〉 〈職場見学の実施〉 <u>〈職場体験の機会を提供 (倉敷市3 岡山市1 計4)〉</u> 〈働き始めた後の相談支援〉 〈職業的自立への促し〉 〈就労後の定着支援〉 〈「働く」ことへの不安の解消〉 〈「働く」ことへの悩みの解消〉
[6 自立支援]	<u>〈社会的な自立支援 (倉敷市2 岡山市1 計3)〉</u> 〈当事者のやる気が出るまでの見守り〉 〈生きる力を育ていけるような働きかけ〉 〈当事者にやる気を出させるような働きかけ〉 〈当事者が社会資源を利用できるようになるまでの支援〉
[7 生活支援]	<u>〈生活の安定に向けての支援 (倉敷市2 岡山市1 計3)〉</u> 〈精神面への支援〉 〈安全面への配慮 (2)〉

絡)、「家族と相談」の2種類を「家族との協働」とした。  
 (就労移行支援センターとの協働)、「講師依頼」の2種類を「他支援者との協働」とした。次の9種類のデータラベルを「当事者のしんどさ理解」とした。〈家で一人で勉強してもわからない時がある〉、〈学習意欲が当事者にない場合がある〉、〈勉強よりもその手前の支援が必要な時がある〉、〈一歩踏み出せない者がある〉、〈関係の出来ていない〉・〈警戒心の強い〉状態での長時間面接は相

当な負担になる、〈顔を合わせることが出来ないこともある〉、〈不登校・ひきこもり支援は誰にも会いたくないというところから始まる〉、〈訪問しても当事者に会えない場合がある〉である。

(表4)より、次の9種類のデータラベルを「親子の関係調整」とした。〈親の「どうにかして学校に行ってほしい」〉・〈親の「高校だけは卒業してほしい」〉という思い外し、〈親が子どもの思いを受け入れられる〉・〈高

(表3) 効果的な支援(その1)

【3 効果的支援】	
[第1段階のグループ編成]	〈データラベル〉 <u>〈倉敷市〉</u> 、〈岡山市〉、 <u>〈倉敷市と岡山市〉</u>
[8 個別対応]	〈当事者に合ったプログラムの推奨〉 〈個別カリキュラムの作成〉 <u>〈個別支援 (倉敷市1 岡山市1 計2)〉</u> 〈個別カリキュラムに沿った支援〉 <u>〈個別指導 (倉敷市3 岡山市1 計4)〉</u>
[9 カウンセリング]	〈個別カウンセリング〉 〈親カウンセリング〉 〈訪問カウンセリング〉 <u>〈来談カウンセリング (倉敷市1 岡山市1 計2)〉</u> 〈支援前面談〉 〈面談〉
[10 訪問]	〈訪問 (9)〉 〈“一歩外に出るまで”の訪問〉 〈“スタートへ導くため”の訪問〉
[11 家族との協働]	〈家族への連絡〉 <u>〈家族と相談 (倉敷市1 岡山市1 計2)〉</u>
[12 他支援者との協働]	〈就労移行支援センターとの協働〉 〈講師依頼〉
[13 当事者のしんどさ理解]	〈家で一人で勉強してもわからない時がある (3)〉 〈学習意欲が当事者にない場合がある〉 〈勉強よりもその手前の支援が必要な時がある〉 〈一歩踏み出せない者がある〉 〈関係の出来ていない状態での長時間面接は相当な負担になる〉 〈警戒心の強い状態での長時間面接は相当な負担になる〉 〈顔を合わせることが出来ないこともある〉 〈不登校・ひきこもり支援は誰にも会いたくないというところから始まる〉 〈訪問しても当事者に会えない場合がある (3)〉

※岡山市のみのデータラベルにおける第1段階のグループ編成は「    」で示す。

筆者作成

(表4) 効果的な支援 (その2)

【3 効果的支援】	
[第1段階のグループ編成]	〈データラベル〉 <u>〈倉敷市〉</u> , 〈岡山市〉, <u>〈倉敷市と岡山市〉</u>
[14 親子の関係調整]	〈親の「どうにかして学校に行ってほしい」という思い外し〉 〈親の「高校だけは卒業してほしい」という思い外し〉 〈親が子どもの思いを受け入れられるような働きかけ〉 〈「高校を辞めても将来は大丈夫」と親が思えるような働きかけ〉 〈「当事者が高校退学を希望すれば、親は手続きをする」仕掛けづくり〉 〈親が当事者理解をできるようになるまでの働きかけ (2)〉 〈親に人には様々な生き方があることの理解促進〉 〈親に高校卒業だけが人生ではないことの理解促進〉 〈親と一緒に農園へ農作物を収穫しに行く機会づくり〉
[15 社会との関係調整]	〈地域交流〉 <u>〈コミュニケーション訓練 (倉敷市1 岡山市1 計2)〉</u> 〈大人との関係構築〉 〈外出に同行〉 〈短期外泊 (旅行) に同行〉 〈イベント参加を働きかけて同行 (2)〉 〈農場体験参加への働きかけ〉 〈自宅から自分で出てくることが出来る人への他サービスの紹介 (2)〉 〈外出までにもう一歩という方に対する働きかけ〉 〈他者と触れ合えるような働きかけ〉 〈他の機関への紹介〉 〈通所できるような資源との結びつけ〉 〈家から一歩出る機会の提供〉
[16 関係づくり]	〈興味への寄り添い〉 <u>〈会話・遊び・勉強を通してのコミュニケーション (倉敷市3 岡山市3 計6)〉</u> 〈初めて出会った時の自己紹介〉 〈支援者が関心のあることの提示〉 <u>〈当事者の関心があることへの働きかけ (倉敷市4 岡山市3 計7)〉</u> 〈共通の話題づくり (2)〉 <u>〈当事者との信頼関係の構築 (倉敷市1 岡山市5 計6)〉</u> 〈得意分野を生かして当事者の心をつかむ (2)〉 〈「楽しいから居場所の利用を始めよう」と考えられるような働きかけ〉 〈1対1の関わり〉 <u>〈関係構築のためにゲームをする人という立ち位置での関わり (倉敷市1 岡山市1 計2)〉</u> 〈関心のあることの共有 (2)〉 〈外出時の同行 (一緒に遊びに行く等)〉 〈場の共有〉 〈連絡のとりあい (2)〉 〈自宅・自宅近所などでの初回面談〉 〈家の前で当事者に向けての声かけ (2)〉 〈ドアの前で当事者に向けての声かけ (2)〉 〈“誰かが自分のために来てくれた”と感じてもらえるような働きかけ〉

※岡山市のみのデータラベルにおける第1段階のグループ編成は [ ] で示す。

筆者作成

校を辞めても将来は大丈夫」と親が思える) ような働きかけ, (「当事者が高校退学を希望すれば, 親は手続きをする」仕掛けづくり), (親が当事者理解をできるようになるまでの働きかけ), (親に人には様々な生き方がある)・(親に高校卒業だけが人生ではない) ことへの理解促進, (親と一緒に農園へ農作物を収穫しに行く機会づくり) である。次の13種類のデータラベルを[社会との関係調整]とした。(地域交流), (コミュニケーション訓練), (大人との関係構築), (外出に)・(短期外泊(旅行)に)・(イベント参加を働きかけて) 同行, (農場体験参加への働きかけ), (自宅から自分で出てくることのできる人への他サービスの紹介), (外出までにもう一步という方に対しての)・(他者と触れ合えるような) 働きかけ, (他の機関への紹介), (通所できるような資源との結びつけ), (家から一步出る機会の提供) である。次の19種類のデータラベルを[関係づくり]とした。まず, (興味への寄り添い), (会話・遊び・勉強を通してのコミュニケーション), (初めて出会った時の自己紹介), (支援者が関心のあることの提示), (当事者の関心があることへの働きかけ) である。そして, (共通の話題づくり), (当事者との信頼関係の構築), (得意分野を生かして当事者の心をつかむ), (「楽しいから居場所の利用を始めよう」と考えられるような働きかけ) である。また, (1対1の関わり), (関係構築のためにゲームをする人という立ち位置での関わり), (関心のあることの共有), (外出時の同行), (場の共有), (連絡のとりあい) である。さらに, (自宅・自宅近所などでの初回面談), (家の前)・(ドアの前) で当事者に向けての声かけ, (「誰かが自分のために来てくれた」と感じてもらえるような働きかけ) である。

上記の[個別対応], [カウンセリング], [訪問], [家族との協働], [他支援者との協働], [当事者のしんどさ理解], [親子の関係調整], [社会との関係調整], [関係づくり]の9グループを【効果的支援】とした。

#### 4) 【効果】について

(表5)より, (人と言葉を交わす), (当事者のやる気が出現), (当事者にあった仕事への定着), (高校進学者の増加), (当事者と支援者との関係の深まり), (当事者の気持ちが外に向く), (信頼できる人がいる場所で一步踏み出すことができる), (自宅から自分で外に出ること

ができるようになる)の8種類を[支援効果]とした。(コミュニケーション能力をつける), (社会に出て自立できる“生きる力”を身につける), (子どもの主体性が尊重されるアットホームな居場所で過ごしてもらう), (「ここだったら相談したい」と思える場所)・(「働きたい」と思える場所)・(「通ってみたい」と思える場所)を提供する, (「助けに来てくれた」と感じてくれたらいい)の7種類を[求められる支援の成果]とした。上記の[支援効果], [求められる支援の成果]の2グループを【効果】とした。

#### 5) 【課題】について

(表5)より, (初回面接は15分から20分程度で終わらせるようにする), (ステップアップできるような指導を受ける)の2種類を[支援技術の向上]とした。(時間によって教室や先生の予定がほぼいっぱいの状態), (ひきこもり支援に対する活動資金不足)の2種類を[資源の充実]とした。上記の[支援技術の向上], [資源の充実]の2グループを【課題】とした。

#### (2) 図解化と文章化

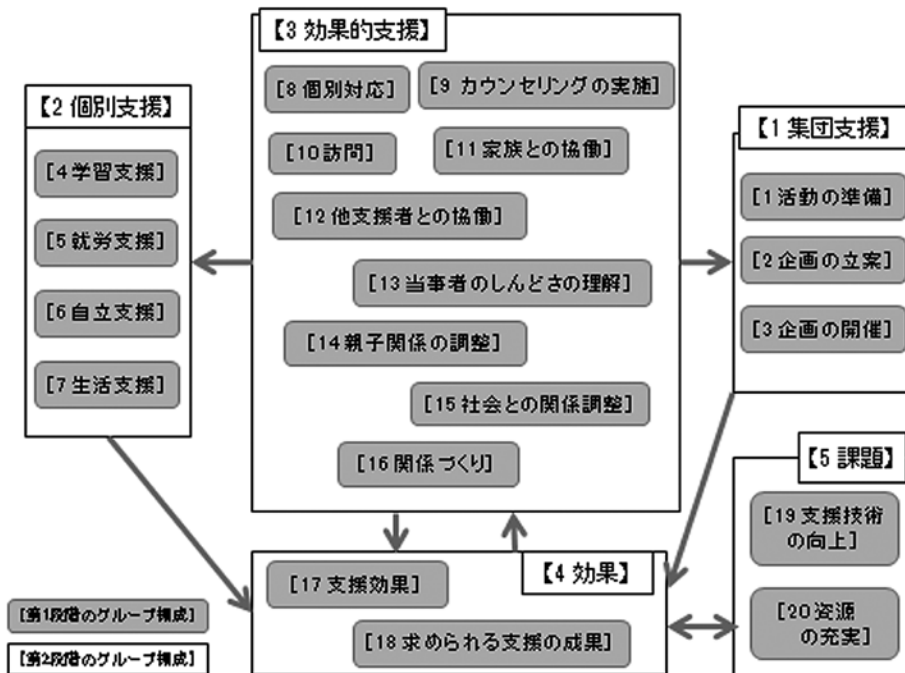
前述の5【グループ】については, 倉敷市も岡山市も含んだものであるため, 両市の内容を併せて図解化すると(図1)のようになり, それにもとづいて文章化すると次のようになった。

支援には, 【集団支援】と【個別支援】がある。【集団支援】を実施するために, 支援者は, [活動の準備], [活動の企画], [企画の開催]の順に実施していく。また, 【個別支援】には, [学習支援], [就労支援], [自立支援], [生活支援]がある。これらの支援を効果的に行うために, 支援者は[個別対応], [カウンセリング], [訪問], [家族との協働], [他支援者との協働], [当事者のしんどさ理解], [親子の関係調整], [社会との関係調整], [関係づくり]を行う。これらの【効果的支援】によって, [支援効果]がみられるとともに[求められる支援の成果]も見出された。これらの【効果】及び期待される【効果】の充実をもたらすために[支援技術の向上], [資源の充実]がなされなければならないという【課題】がある。その【課題】を改善していくことで【効果】がみられ, 支援の一つ一つが【効果的支援】となる。

(表5) 支援の効果・課題

<b>【4 効果】</b>	
[第1段階のグループ編成]	〈データラベル〉 〈倉敷市〉, 〈岡山市〉, 〈倉敷市と岡山市〉
[17 支援効果]	〈人と言葉を交わす〉 〈当事者のやる気が出現〉 〈当事者にあった仕事への定着〉 〈高校進学者の増加〉 〈当事者と支援者との関係の深まり (3)〉 〈当事者の気持ちが外に向く〉 〈信頼できる人がいる場所で一步踏み出すことができる (6)〉 〈自宅から自分で外に出ることができるようになる (2)〉
[18 求められる支援の成果]	〈コミュニケーション能力をつける〉 〈社会に出て自立できる“生きる力”を身につける〉 〈子どもの主体性が尊重されるアットホームな居場所で過ごしてもらう〉 〈「ここだったら相談したい」と思える場所を提供する (2)〉 〈「働きたい」と思える場所を提供する〉 〈「通ってみたい」と思える場所を提供する〉 〈「助けに来てくれた」と感じてくれたらいい〉
<b>【5 課題】</b>	
[第1段階のグループ編成]	〈データラベル〉
[19 支援技術の向上]	〈初回面接は15分から20分程度で終わらせるようにする〉 〈ステップアップできるような指導を受ける〉
[20 資源の充実]	〈時間によって教室や先生の予定がほぼいっぱいの状態〉 〈ひきこもり支援に対する活動資金不足〉

※岡山市のみのデータラベルにおける第1段階のグループ編成は [ ] で、倉敷市は [ ] で示す。 筆者作成



(図1) 効果的支援と課題

出所：中典子他 (2017) 「不登校・ひきこもり支援団体による支援活動の内容と効果—倉敷市・岡山市での取り組みを中心に—」  
 岡山県社会福祉士会主催『第2回 医療福祉研究発表会』で発表した内容にもとづいて加筆修正



## IV. 総合考察

本研究では、倉敷市・岡山市での不登校・ひきこもり支援団体による活動の効果的支援とその課題を探るため、倉敷市5団体・岡山市9団体へのインタビュー内容をもとに分類整理した。

その結果にもとづいて両市の効果的支援を検討すると、次のことを明らかにすることができた。〈人と言葉を交わす〉、〈当事者のやる気が出現〉、〈当事者にあった仕事への定着〉、〈高校進学者の増加〉、〈当事者と支援者との関係の深まり〉、〈当事者の気持ちが外に向く〉、〈信頼できる人がいる場所で一步踏み出すことができる〉、〈自宅から自分で外に出ることができるようになる〉である。

また、分類整理の過程で、[求められる支援の成果]が次のように出てきた。〈コミュニケーション能力をつける〉、〈社会に出て自立できる“生きる力”を身につける〉、〈子どもの主体性が尊重されるアットホームな居場所で過ごしてもらう〉、〈「ここだったら相談したい」と思える場所〉・〈「働きたい」と思える場所〉・〈「通ってみたい」と思える場所〉を提供する、〈「助けに来てくれた」と感じてくれたらいい〉であることが明らかになった。そのために、支援者は、【集団支援】と【個別支援】の充実を目指して [個別対応]、[カウンセリング]、[訪問]、[家族との協働]、[他支援者との協働]、[当事者のしんどさ理解]、[親子の関係調整]、[社会との関係調整]、[関係づくり]を行っている。このうち、[訪問]、[他支援者との協働]、[親子の関係調整]については岡山市の分類整理から見出されたものであるが、【 】では倉敷市の内容も併せて【効果】とできたこと、また、子育て支援体制の充実が図られる中で、倉敷市においてもこれらの支援を実施していくことによって支援効果が導き出されることになるといえる。

また、【課題】については、岡山市の分類整理では[支援技術の向上]、倉敷市の分類整理では[資源の充実]が見出されたが、【 】では両者を【課題】とできたこと、また、これらはいずれの市においても支援体制を整えるための重要なものである。

分類整理の結果から、倉敷市・岡山市それぞれに独自内容が出てきているが、これらの内容はそれぞれの市

で効果的なものであることから、お互いに取り入れ、支援の質を高めていく必要があるといえる。

これらのことから、倉敷市・岡山市における不登校・ひきこもり支援団体による効果的な支援活動の内容は、[個別対応]、[カウンセリング]、[訪問]、[家族との協働]、[他支援者との協働]、[当事者のしんどさ理解]、[親子の関係調整]、[社会との関係調整]、[関係づくり]であるといえる。また、その効果は、先述のとおり、〈人と言葉を交わす〉、〈当事者のやる気が出現〉、〈当事者にあった仕事への定着〉、〈高校進学者の増加〉、〈当事者と支援者との関係の深まり〉、〈当事者の気持ちが外に向く〉、〈信頼できる人がいる場所で一步踏み出すことができる〉、〈自宅から自分で外に出ることができるようになる〉といえる。これらの効果的支援にもとづいて、民間支援団体は、行政と協働し、不登校・ひきこもり支援体制の充実の一助となるといえる。

## V. 課題

本研究は、web上で調べた中で民間支援団体の多くが集中するととらえて実施した倉敷市・岡山市におけるインタビューにもとづくものであり、そこでの効果的支援と課題を見出せたことは一定の評価ができる。しかし、情報収集していくと、web上以外の団体が数多く存在することが明らかになった。よって、岡山県下でこれらの支援が効果的であるか否かは県下全域の団体の思いを聞かなければ食い違いが生じることもある。そして、一つの都市で効果的支援であったことが、他の都市で効果的であるかどうかということは、必ずしもそうとは限らない。また、インタビュー数が少ないため、それぞれの市にしか出てこない内容が生じ、限定的な結果となったのかもしれない。

今後は、岡山県下全域における支援団体に対してインタビューを行い、支援団体による活動の内容と効果を明らかにし、岡山県下で活動する団体による支援充実のための一助になりたいと考える。

## 参 考 文 献

- 浅田 (梶原) 彩子 (2010) 「ひきこもり当事者の『居場所』支援に関する分析—家族・当事者・支援者の視点から—」『人間文化研究科年報』25, 193頁～203頁
- 伊勢真理絵, 中野靖彦 (2014) 「不登校支援の現状と展望」『愛知淑徳大学教育学研究科論集』4, 15頁～27頁
- 稲毛知愛美他 (2014) 「不登校支援としての適応指導教室の意義と課題—その意義について」『京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要:健康科学』9, 79頁～81頁。
- 川喜田二郎 (1970) 『続・発想法 KJ法の展開と応用』中央公論新社
- 子ども・若者育成支援推進本部 (2016) 「子供・若者育成支援推進大綱」  
<http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/pdf/taikou.pdf> (2016年12月9日確認)
- 伏見美紀他 (2016a) 『大きくなあれ～♪ 倉敷編 ～不登校・ひきこもり支援の居場所があるんだって～』一般社団法人 岡山県社会福祉士会 子ども家庭福祉委員会
- 伏見美紀他 (2016b) 「倉敷市における不登校・ひきこもり支援団体が目指すもの—支援団体へのインタビューより探る—」『福祉おかやま』33, 19頁～26頁
- 伏見美紀他 (2016c) 「倉敷市における不登校・ひきこもり支援の現状と課題—民間の不登校・ひきこもり関連支援団体に対するインタビュー調査より—」『社会福祉科学研究』5, 35頁～43頁
- 伏見美紀他 (2016d) 「倉敷市における不登校・ひきこもり支援団体の情報誌作成に向けて検討したこと」『中国学園紀要』15, 79頁～86頁
- 伏見美紀他 (2016e) 「登校・ひきこもり支援団体が居場所運営で大切にしていること—8つの支援団体関係者へのインタビューより探る—」『地域福祉サイエンス』3, 9頁～15頁
- 伏見美紀他 (2017a) 「不登校・ひきこもり支援団体による活動の効果—岡山市での取り組みを中心に—」『第23回岡山県保健福祉学会 (おかやま保健福祉研究)』120頁～123頁
- 伏見美紀他 (2017b) 『大きくなあれ～♪ 岡山市編 ～不登校・ひきこもり支援の居場所があるんだって～』一般社団法人 岡山県社会福祉士会 子ども家庭福祉委員会
- 山本 奨 (2015) 「不登校支援の効果に関する校種間比較—不登校状態と支援方法の適用関係の再分析から—」『岩手大学教育学部研究年報』74, 93頁～106頁
- ※本稿は, 中典子他 (2017) 「不登校・ひきこもり支援団体による支援活動の内容と効果—倉敷市・岡山市での取り組みを中心に—」『第2回 医療福祉研究発表会』で発表した内容を加筆・修正したものである。
- ※本稿は, 平成28年度中国学園大学特別研究助成金「岡山市における不登校・ひきこもり支援の居場所の現状と課題に関する研究」の助成での成果による一部である。